# 分蜜糖工場のバガスのエネルギー利用と有効活用

沖縄県内の分蜜糖工場

#### 【経緯】

- ・大量に発生するバガ ス(さとうきびの搾りか す)の有効活用
- ・工場の燃料代等の経 費削減を模索

### 【取組】

- バガスを燃料としてボイ ラーを稼働。発生した蒸気 を発電や熱源として利用 ・燃料に使用しないバガス
- をたい肥製造等に利用し、 バガスを余すことなく利用

### 【効果】

- ・バガスの有効活用に より資源循環型農業を 実現
- 農業者に肥料・たい肥 を供給
- •工場の燃料代等削減

## 事業スキーム

沖縄県内の8社9工場 CO2 ・バガスをボイラー用燃料、たい肥、 発酵飼料として再利用 電気は工場で自家利用 ・熱を搾汁液を煮詰める工程で利用 雷気・熱 発電設備 さとうきび 糖汁 汁 (分蜜糖 ボイラー 製造へ) バガス ボイラー燃料 84%\* たい肥 13%\*

さとうきび農家等 さとうきび



- バガスから製造されたたい肥を 利用して農作物を生産
- さとうきびは大気中のCO2を取り込 むため、バガス燃焼によって大気 中の炭素循環量は増加しない。

さとうきび

たい肥 たい肥センター



- ・バガスや家畜ふん尿を利用して たい肥を製造
- ・たい肥を農業者等に提供

たい肥

- ·バガスから製造された発酵飼料 を牛等に給餌
- ・家畜ふん尿をたい肥の原料として

飼育中の牛

#### 調料製造会社

✓バガスを、ボイラー用燃料、たい肥、発酵飼料等として有効活用するとともに、ボイラーで生じた蒸気を 発電や搾汁液を煮詰めるための熱源として利用し、工場の経費削減にも寄与

発酵

飼料

✓バガスから製造されたたい肥・発酵飼料を農家等に提供し、資源循環型農業にも寄与

発酵飼料等

※平成29/30年期実績値

✔ さとうきびはCO<sub>2</sub>を吸収して成長するため、バガスを燃焼しても大気中の炭素循環量は増加しない

#### 今後の展開

●本取組を継続することにより、さとうきび生産及び資源循環型農業の更なる 発展を目指す

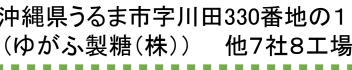


基幹産業:観光リゾート産業

特産品:肉用牛、さとうきび、豚

(出典:「国勢調査」・「人口推計」、「新しい沖縄づくり10年計画」、「生産農業所得統計」)

【発電所の概要】所在地:沖縄県うるま市字川田330番地の1









首里城本殿

お問合せ先:日本分蜜糖工業会 TEL 098 - 869 - 0417